

「**院内患者会世話人連絡協議会**」

Hospital Based Patient Advocacy Council

院内患者会世話人連絡協議会　そこにあるものは、

世話人の情報交換、交流の場

世話人のねぎらいをする場

世話人に癒しを提供する場

連絡先：soudan@medicina-nova.com

―　　記　　―

■ **開催日時**　**２０１２年１０月２７日**（**土曜日**）　**１３時―1７時**

**■ 場　　所**　**東京大学医学部付属病院　入院棟A 15階　大会議室**

**■ 議事次第**

13:00 **１．今回の進め方・・・・・・・・・・・・・ ・新井さん**

13:05**２-1　各患者会の現状報告・情報交流・・・・・各世話人**

**２-2　新しいホームページの説明・・・・・・・事務局**

14:30　**３．【講演】患者の意志決定の過程と家族並びに医療者のリフレクション**

**（白血病患者の造血幹細胞移植の局面の事例）**

**後藤真美子さま（岡山大学大学院保健学研究科臨床応用学専攻）**

 ― 休憩　―

15:15  **４．　おしゃべり会・・・・・・・・・・・司会　佐藤さん**

 16;55 **５. 閉会挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・藤本さん**

付記：各患者会の近況報告は、各会にお任せいたしますので、内容もご自由にお決め

下さい。そして、必要な配布資料などもお持ちいただければ幸いです。

**後藤真美子氏論文抄録**

**１：人間看護学研究　No.9,37-43(2011.03.31)**

 **【造血器腫瘍に対する化学療法目的で長期入院した患者の社会復帰に至る**

**までのプロセス-日常生活上の問題に焦点をあてて】**

 **背景**　造血器腫蕩に対する治療は、抗腫蕩薬や造血幹細胞移植の開発により著しく進歩している。しかしその発展の陰に、様々な弊害が出現していることも見逃せない。治療に伴う合併症や治療自体が患者の日常生活に及ぼす弊害に対し、リハビリテーションプログラムの検討・導入が始められている。しかし、造血器悪性腫蕩の治療目的で長期入院をした患者が退院後どのように社会復帰へ向かうのか、その

過程における日常生活上の問題を明らかにした研究はなされていない。

**目的**　造血器腫蕩に対する化学療法や末梢幹細胞移植のために長期入院した患者の社会復帰プロセスを把握し、日常生活上の問題を明らかにする。

方法　平成20年4月までに造血器腫蕩により多剤併用化学療法、末梢幹細胞移植を受けクリーン病床を経験後、外来通院中である患者5名に対しインタビューを行い、その内容を質的に分析した。

**結果**　全406のコードが抽出され、さらに60のサブカテゴリーに分類された。各サブカテゴリー閣の関係性を踏まえ、それらを包括する7つのカテゴリが抽出された。カテゴリ名は、「家族友人との良好な関係」、「社会復帰への誘因」、「外来治療への移行に対する不安」、「医療者との信頼関係からの影響」、「筋力体力の低下J、「有害事象、ボディイメージの実際」、「心の持ち方」であった。

**結論**　社会復帰には時期があり、病気・移植などの治療が「負」としてではなく「懐かしい経験」として前向きに捉えられるようになったとき、すなわち受容が行われた時期に一致する。また、自分自身の頭髪の回復等、ボディイメージの回復が心の回復を促し活動範囲の拡大に影響を及ほしているといえる。

造血器腫虜の治療が長期に及ぶのと同様に、回復にも長期間の時聞が必要である。造血器腫蕩の治療のための長期入院は患者それぞれの生活全般に多くの変化をもたらす。移植治療による長期入院を乗り越え、社会復帰するには個々の環境と時間に合わせて、きめ細やかな支援をしなければならないことが示唆された。

**２：人間看護学研究 No.10 ,67-75(20120331)**

**【造血幹細胞移植を選択した白血病患者に寄り添う配偶者の心理的変遷】**

　　